

研究総論[概要版]

令和5～7年度
附属福岡中学校
研究主題

豊かな未来社会を切り拓く生徒の育成

～問題発見・解決の力を高め、発揮する場の設定を通して～

1 研究主題について（概要）

「豊かな未来社会を切り拓く生徒」とは、必要に応じて多様な他者との協働を経て、自ら問題を解決したり、発見したりすることで、持続可能な社会とウェルビーイングの向上を実現しようとする生徒のことである。このような生徒を育成することが、本研究の主たるねらいである。

令和5年6月に第4期教育振興基本計画が閣議決定され、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という二つの柱が掲げられた。研究主題における「豊かな未来社会」とは、持続可能な社会とウェルビーイングの向上の両方を実現した未来の姿を指すものである。これらの姿を具現化することは学校教育の現場の責務であり、中学校でどのような取組が可能であるかを検証することは、本校の使命の一つであると考えます。

2 研究副主題について（概要）

「問題発見・解決の力」とは、「初期状態（何らかの欲求や要求が満たされていない状態）を把握し、そこから目標状態（満たされた状態）へ移行するための解決策を考え、実行するための資質・能力である。

「問題解決」について、三宮（2001）は「何らかの欲求や要求が満たされていない状態（初期状態）から満たされた状態（目標状態）への移行」と説明している。つまり「問題」とは「何らかの欲求や要求が満たされていない状態（初期状態）」のことを指すが、本研究において、これは生徒が在学中もしくは卒業後にウェルビーイングを向上させ、持続可能な社会の創り手となって、豊かな未来社会を切り拓いていく過程で直面するような事柄を指す。将来の予測が困難な時代において、他者から与えられた問題を解決する力も必要ではあるが、解決すべき問題を発見する力も不可欠である。ただし、各教科の授業の中で、上記の定義通りの「問題」を発見したり、解決したりする場面の設定は容易ではない。そこで、本研究では、問題発見・解決の力を高めるために各教科が担うべき役割を明らかにし、各教科論に明記した。また、各教科の役割については、【別添資料】として末尾に掲載した。

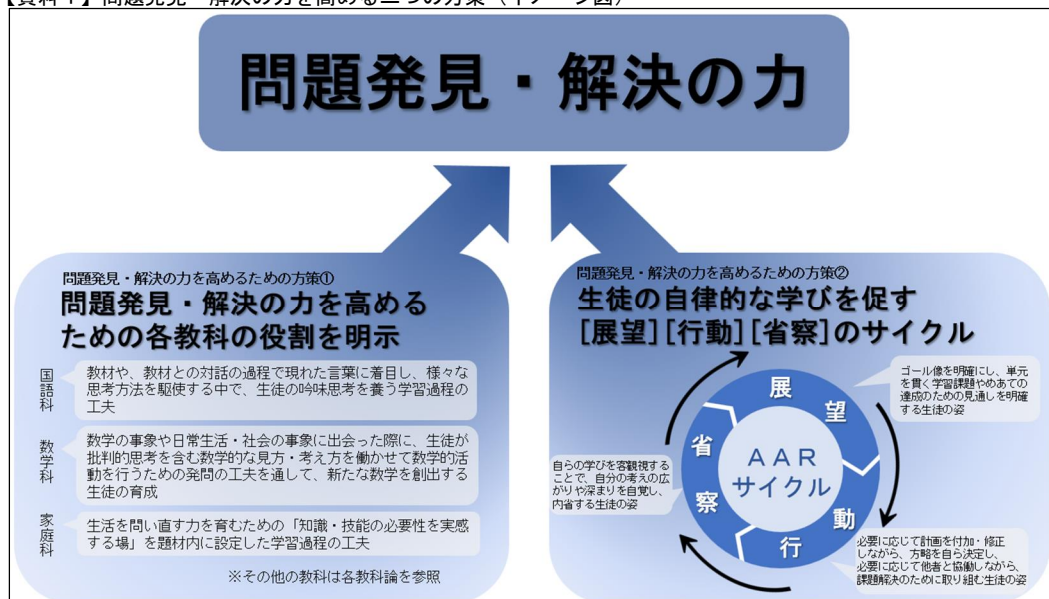
「問題発見・解決の力」を高めるために、「各教科の役割を明示すること（①）」と、「“展望”“行動”“省察”のAARサイクルを回す（②）」という二点を教科横断的に取り組む。

問題発見・解決の力を高めるために、上記の二点を教科横断的に取り組んでいる（【資料1】）。

①については、各教科が「問題発見・解決の力」を高めるために担う役割を教科論で明示するものである。その際、どの教科でも「創造性」や「批判的思考」に着目した上で、教科論を作成した。

②については、単元や授業場面の中に「展望」「行動」「省察」のサイクルを設定し、想定される生徒の「展望する姿」「行動する姿」「省察する姿」を具体化することで、生徒の自律的な学びを促し、問題発見・解決

【資料1】問題発見・解決の力を高める二つの方策（イメージ図）



「問題発見・解決の力を発揮する場の設定」とは、各教科の授業を通じて高められた問題発見・解決の力を発揮する場として、主に総合的な学習の時間における個別テーマ探究学習「フロンティア・タイム」を位置づけていることである。

中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）総則編では、問題発見・解決の力を「学習の基盤となる資質・能力」とした上で、「総合的な学習の時間における横断的・総合的な探究課題や、特別活動における集団や自己の生活上の課題に取り組むことなどを通じて、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できるようにすることが重要」と述べられており、本研究においても、学校教育の中で問題発見・解決の力を発揮する場として「総合的な学習の時間」を位置づけている。本校では総合的な学習の時間の多くを、個別テーマ探究学習である「フロンティアタイム」に充てている。今後は、各教科を通じて高まった問題発見・解決の力と総合的な学習の時間の時間との接続について明らかにし、主題にある生徒像の実現を目指していくものである。

【別添資料】「問題発見・解決の力」を高めるための各教科の取組（福岡教育大学附属福岡中学校 Ver.）

教科	「問題発見・解決の力」を高めるために
国語科	教材や、教材との対話の過程で現れた言葉に着目し、様々な思考方法を駆使する中で、生徒の吟味思考を養う学習過程の工夫
社会科	教師・教材・他者との対話に加え、生成 AI との対話による社会的論争問題の解決に向けた議論をとおして、批判的思考力を働かせる学習過程の工夫
数学科	数学の事象や日常生活・社会の事象に出会った際に、生徒が批判的思考を含む数学的な見方・考え方を働かせて数学的活動を行うための発問の工夫を通して、新たな数学を創出する生徒の育成
理科	科学的に探究する資質・能力を高めるために、単元の行動段階に問題解決における複線型の展開モデルを位置づけた学習過程の工夫
音楽科	音や音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を思考のよりどころとし、歌唱や器楽、創作といった表現する活動と音楽を鑑賞する活動とを往還する学習過程の工夫
美術科	生徒が表現及び鑑賞のあらゆる活動場面で、対象を造形的な視点で捉え、「発想や構想」と「見方や感じ方」を行き来させて、美的、創造的な構成（創造性）を発揮することができる学習活動の工夫
保健体育科	体育分野の学習において他者評価・相互評価を活性化させ、生徒同士がお互いの考えや動きを言葉や体で表現し、互いを認め合い、課題を捉え解決策が見えるように、自己を調整していく学習活動の工夫
技術・家庭科 〔技術分野〕	生活や社会の中から問題を発見し課題を設定して解決に挑む価値創造型の PjBL において、エンジニアリングデザインプロセスと同型性をもつ問題解決を題材内に設定した学習過程の工夫
技術・家庭科 〔家庭分野〕	生活を問い直す力を育むための「知識・技能の必要性を実感する場」を題材内に設定した学習過程の工夫
外国語科	「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の 4 技能 5 領域それぞれに他者意識を持たせることでコミュニケーション能力を高める場面設定の工夫

※各教科の詳細については、各教科論に記載している。

<参考文献（概要版に関わるもののみ記載）>

文部科学省「教育振興基本計画（本文）」（2023）

文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」（2017）

国立教育研究政策所『資質・能力 理論編 [国研ライブラリー]』東洋館出版（2016）

ドミニク・S・ライチェン&ローラ・H・サルガニク『キーコンピテンシー 国際標準の学力を目指して』明石出版（2006）

白井俊『OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ書房（2020）

文部科学省初等中等教育局教育課程課「問題発見・解決能力を育成する指導の充実」文部科学省『中等教育資料 4』より（2024）文部科より（2024）

この「研究総論(概要版)」は 2024 年 11 月の教育研究発表会の当日お越しいただいた方々に研究概要をお伝えするために作成した概要版であり、細やかな経緯や考え方については省略しています。なお、「研究総論(詳細版)」を右記の二次元バーコードからご覧いただくことができます。ぜひ、お時間のあるときにご覧ください。

福岡教育大学附属福岡中学校 研究部

